

神が御目を留めてくださる

ブロックアドバイザー 蔦田崇志



「私たちの神、契約と恵みを守られる、大いなる、力強い、恐るべき神よ。アッシリヤの王たちの時代から今日まで、私たちと私たちの王たち、私たちのつかさ、祭司、預言者たち、また、私たちの先祖と、あなたの民全部に降りかかったすべての困難を、どうか今、小さい事とみなさないでください。」（ネヘミヤ九・32）

エズラ記とネヘミヤ記は共に「再建」を主題として、信仰者を奮い立たせるメッセージに富む書物です。リバイバル（復興）のビジョンに取り組み聖徒たちに殊更大きなみことばの後押しをもたらします。特にネヘミヤ記は、エルサレム復興の公的記録でありつつ、ネヘミヤ自身の個人的な祈りが記されている日誌のようなどころもあり、一層親しみを感じる一書です。

ネヘミヤが背負わされる著しい重荷の中で、切実に悔い改めて憐れみを乞い求める窮余の祈り（一章）、大仕事を前に不安要素を見据えながらも「再建に取りかかろう」と決断して、背伸びをするように信仰告白をするネヘミヤ（二・20）、御心になつた働きであるはずなのに多くの妨げに見舞われ、憤りを露わにしつつ訴える姿も描かれています（六・14など）。エズラという力強い助け人を得て、喜びを隠しきれず民を励ます場面など、共感できる聖徒方も多くおられることでしょう（八・9～12）。

やがてネヘミヤは、主の前に民を招集して礼拝を献げます（九章）。みことばを朗読し、そしてこれまでの歩みを回顧します。かなり遡ります。それだけ触れ

ておかなければ、と思うところが詰まった歴史だったのです。彼らが振り返るのは、通過した苦難の数々です。神の誠実に対する民の不忠、神の約束に対する民の不信、こうした不信仰の繰り返しが多く不幸と患難をもたらしたのです。それらを悔い改める中でネヘミヤはふと祈ります。「力強い、恐るべき神よ。……降りかかったすべての困難を、どうか今、小さい事とみなさないでください。」創造主である全能の神の御前に、彼らが通過してきた困難や苦しみは実に取るに足らないものと映るに相違ありません。実際そうでしょう。しかし、そこを通過した彼らにとっては死活問題でした。絶望的な事態、想起するもおぞましい出来事だったのです。そのことを分かってください、とネヘミヤは訴えるのです。私たちにとっても、これまで通過してきた事柄は断じて「小さな事」ではありません。被災された方々の苦しみも然り、教団がいま取り組んでいる諸課題、全国の諸教会が向き合う戦いの数々、聖徒方が日々の歩みの中で直面する困難、それは他の人の目にどう映ろうとも、その只中におられます私たちにとりましてはどれも「小さい事」ではありません。そのようなときに、天地を造られた全能者が私たちの困難を「小さい事」とみなさず、御腕を差し出して下さることを期待できる私たちは幸いです。私たちが経験するすべては、ひとつ残らず主の御目に大いに留まり、主のみわざを引き起こすのです。私たちがネヘミヤの祈りと信仰に和して前進致しましょう。

目次

- 神が御目を留めてくださる……蔦田崇志……1
- 熊本地震災害対策委員会、IWF 理事会……2
- 教団運営委員会便り、教育局、関西YS報告……3
- 海外トピックス、国内局コラム、読書のひろば……4
- カナ、壮年部運営委員会、燭台……5
- 広げた翼……6～8
- 聖宣神学院報……9～11
- 公報、消息……12

災害対策本部から 熊本地震への取り組み 支援の連携をとりつつ

災害対策委員会 葛田直毅

熊本地震のために、お祈りと貴いご支援を感謝いたします。

教団では条例140条により、藤本代表を長とする災害対策本部を立ち上げました。対策本部には災害対策委員会に加え、南日本B Aの岩上祝仁師、同時に立ち上げた福岡教会の國重潔志師を長とする現地対策室(國重師の他、吉村和記師、阪下謙師)がメンバーとなつていきます。

対策本部立ち上げに先立ち、災害対策委員会より全国の教会に支援金をお願いを開始し、先月半ばの時点で、270万円を越えるご支援が寄せられており、心から感謝しております。

対策本部の会合は、全員が東京に集まるのが困難なため、インターネットのテレビ電話等を使用して開催しています。

全国の教会へは「災害対策本部からのお願い」として被害状況、支援の状況や支援金・ボランティアの募集等について、既に何回か

のご報告をお送りしていますが、余震がなお続いており、お祈りを必要としています。

▼熊本教会では、会堂の修理が終わり、先月15日からは伝道会も再開されています。しかし、全壊した教会員のご一家が教会に仮住まいされている他、林田伝道師も、教会員宅に住まわれています。またいまだに避難所や車中で生活しておられる方々があります。

▼安食教会の島田貴子師のご実家が全壊し、またご出身教会の単立

本山教会も被害を受けています。

▼教団からは既報の通り、熊本、別府の二教会と島田師にお見舞金をお送りし、現地の対策センターにも支援をお送りしました。現在お送り頂いている支援金を、引き続き東日本大震災と同等の体制で、全半壊のご家庭などに対して支援金としてお送りします。

▼現地対策室の國重師は何度も現地を訪れてくださり、また対策室の先生方も現地の会議に出席されています。またクラッシュ・ジャンパンに派遣されている岩上敬人師も現地のボランティア活動や諸会議に出席していただいています。

▼今後の活動として

▼余震も続いている中、引き続き被災地との連絡を密にし、情報収集と支援に努めます。

▼全国からの支援金を熊本教会を中心に、必要なご家庭や周囲の教会等にお送りします。東日本大震災の時と同様に、支援金は一般の支援金とは別に、教会支援を柱に

お送りします。

▼「災害対策本部からのお願い」や教団のフェイスブックを通して引き続き、現地の情報やお祈りの課題、支援の状況を全国に発信します。

▼ボランティア活動については、教団からの窓口は「クラッシュ・ジャパン」としています。詳しくは「災害対策本部からのお願い」にありますのでご確認ください。

なお、ボランティアのための交通費等の補助等が必要な場合は、教団を通じて災害対策本部にご相談ください。

▼自ら被災者でありつつ、現地で救援活動をされている末弘嘉孝師ご夫妻をはじめ、被災地の牧師方のためにお祈りください。被災地の教会は、建物の被害はもちろん、教会員の支援や訪問、救援物資等の拠点として用いられることが多い



ボランティア活動が始まっています



イムマヌエル熊本教会 5月1日の礼拝

く、連日の先生方の霊肉の重荷は想像を絶するものです。

▼先月の29日には、國重師が本山教会の御用をされました。本山教会は熊本教会との交わりがありますが、講壇の助けを要している教会、牧師の休養や休息のことも視野に入れていく必要があります。とはいえ余震も続いていますので、現状で牧師が被災地を離れることも困難です。

▼ボランティア活動にも多く加わって頂きたい反面、余震の中で、派遣については教会で慎重にご相談ください。派遣の要領や準備については「災害対策本部からのお願い」に詳しく書かれています。

▼何よりも祈りの手を上げ続けてください。不安の中にある多くの方々のために主のお慰めを祈りましょう。支援金にも引き続きご協力をお願いします。

▼ウエスレアン教会では6月に新総理の選出が予定されています。ロビン宣教師は名古屋教会、アンドレア宣教師は京都西教会を中心に活動をしています。今期は、総会や宣教師大会のためそれぞれ一時帰国されます。特にアンドレア宣教師のご健康のためにお祈りください。

▼宣教師たちはIGMの牧師と教会を援助したいと願っています。交通費補助も上限5万円前後までに引き上げるようになりました。ぜひお招きください。日程については直接、宣教師に、経済補助については梅田までご連絡ください。

去る5月10日(火)にお茶の水本部で、IWF理事会が開催されました。

▼WGMではザークル先生が宣教活動の拠点を39年間奉仕された日本からアメリカに移し、引き続きアジア・ヨーロッパの責任者として活動を継続されます。ホーリー宣教師、ブランドン宣教師は首都圏の教会を中心に活動しています。秋にはザック宣教師家族が赴任を予定しています。

IWF理事会から

ザークル宣教師 39年の奉仕を終え

宣教師方と共に働く
イムマヌエルの教会に

世界宣教局 梅田登志枝

教団運営委員会から……

現状を確認しながら 適切な対応を検討

広報 川嶋直行



5月16日(月)、17日(火)、本部会議室で、定例の教団運営委員会が開かれました。今回から、女性牧師部長として、高野裕子師に代わり黛睦子師が出席されるようになりました。また、長年にわたり日本宣教のためにご奉仕くださいました、WGMのケビン&ベッキー・ザークル宣教師ご夫妻をお招きして、感謝の時が持たれました。ザークル師から、日本各地のイムマヌエル教会で奉仕できたことは幸いであつたと、謝辞が述べられました。

藤本満代表によりヨハネ七章37節が開かれた後、教務会議事録の報告・説明、承認、総務局、会堂委員会、出版事業部、国内教会局、世界宣教局、教育局、条例審議委員会、聖宣神学院、人権委員会、70周年記念事業委員会、年会検討委員会、災害対策室からの報告、討議、承認が行われました。議事の詳細は省略いたしますが、幾つかの大きなポイントが

ご紹介いたします。①会堂建築に關する教団の経済的支援は、公平性を保ちながら、状況に緊急かつ柔軟に対応する方向性で進められています。②現役牧師の減少に伴い、様々な形態の「兼牧」が現在進行中であり、現場からのフィードバックを受けつつ、今後の方策が検討されていきます。③国内教会局を中心に、牧師と教会が伝道、牧会に集中できるための「教会経済支援」のあり方が検討されています。④聖宣神学院は、入学者の多様化に合わせてコースが再整備され、併せて「後援会制度」の発足に向けて準備が進められています。⑤イムマヌエル創立70周年記念アンケートの欄外に、統計上の集計結果だけでは伝えきれない貴重な信徒の悩み、考え、提案等があり、これらを7回に亘って教報に掲載されたことの報告があり、追加提言の説明もありました。

これからの年会のあり方につきましても、年会検討委員会で討議されることになりました。現在、ザンビア宣教師館は、完成に向けて内装、電気、水道工事に入っています。教区研修会でご意見を頂いた「ハラスメントのパンフレット」は、人権委員会において、発刊に向けての最終調整が行われています。新しい教団の公式ホームページは間もなく公開されます。難問山積ではありますが、祈りを合わせ、前進して参ります。お祈りのご協力を心から感謝いたします。

教育局運営委員会から……

積極的な活動を 展開していきます

教育局長 林 正弘

5月9日、本年第一回の教育局運営委員会を開催しました。運営委員会は、普段それぞれで働きを進めている教育部、壮年部、女性部、青年部、教会学校部が、お互いの現状や課題を知り、全体の建て上げにつながる機会となっております。報告・協議された事項のいくつかを紹介いたします。

▼教育部では、今年、信徒向けのeラーニング講座が開講されました。信徒伝道者養成課程のスクーリングは、祝日ははさんだ日程とし、一般公開の聖会を設け、より多くの参加者を期待しています。▼各地の聖会での部会開催などの活動を支援していきます。特に、青年部では、今年はユース・ステーション全国大会の開催年です。▼「とにキャン」は、今年も例年のように開かれます。3月には、第一回のスタッフ・トレーニング・キャンプを開催し、準備を進めています。

▼教会学校部では、昨年、「CSさんびか」改訂版を発行しました。今年はぬりえ紙芝居DVD版の頒布を行います。これらの働きのためにお祈りとご協力をお願いいたします。

関西ユース・ステーション 奉仕と交わりの充実感!

教会開拓戦と彦根城を満喫
4月29日開催

中高生キャンプ委員会
細田恒太郎

4月29日(金)、彦根教会を会場に、関西ユース・ステーションが開催されました。近畿と旧大阪教区が再合併されて2年目となります。

教区最東端の彦根教会は、昨年新会堂を与えられて移転しました。5月の献堂一周年記念集会を応援する意味も兼ねて、集会のチラシデザインやプリントもさせて頂き、午前中はチラシ配布、午後はレクというプログラムを計画しました。

午前は会堂に溢れる元気な讚美に始まり、開会礼拝は久保光彦師(和歌山教会)からメッセージを頂き、良き心備えを与えられて、チラシ配布に臨みました。九班に分かれ、班毎に地図を片手に出発しました。

現地の彦根教会の皆様は準備に余念なくお迎えくださり、一人百枚ずつ、紙袋に分けられたチラシを渡される光景には、しばらく前の教会開拓戦を思い出させられました。



申し込み書を配布する時点では「昼食持参」となっていました。彦根教会のご配慮でカレー給食と食後にはセルフのパンと、感動のメニューが用意されていました。思い思いに盛付けて目でも楽しみながら、楽しい交わりのひと時を持つことができました。午後からは選択レクを用意していましたが、結局全員が彦根城の散策を選んだので、車に分乗して約10分、古の史跡を尋ねました。城下町の散策を楽しむ人、天守閣まで上った人など、それぞれ日頃の喧騒から離れて、主にある家族の交わりを楽しみました。午後4時過ぎには、一度教会に戻って一日の恵を感謝し、お祈りして、各々帰途に付きましました。今回は9教会から60名の参加を得ました。お祈りを感謝致します。今後とも近畿の青年たちと彦根教会のために祝福をお祈りください。

国内教会局から

聖い教会を目ざして

教区会で学び合う「牧師のあり方」

教区会を越えて、新しく伝道、宣教の働きを展開しているお互いです。教会の働きに主の豊かな結実をお祈りいたします。

ひとつひとつの教会が健全に保たれ成長を許されること、さらに言えばホーリ



ネスを標榜する群の教会が「聖い」教会を目指すことは、神さまが私たちに与えてくださった志であると言えるのではないのでしょうか。さて、その具体的な手順として、まず私たちは教会内でのお互いの接し方に光を当てていただくように、主の語りかけを求めなければなりません。牧師同士の交わり、牧師と兄弟姉妹方

の関わり、また信徒方の交わりの中に「聖さ」が証しされるためにはどのような振る舞いが求められ、どのような言葉遣いになるのかです。それを具体化するために、私たちには高い標準が与えられています。すなわち「世の光、地の塩」としての役割を果たすように、主から召されているということです。(葛田崇志)

米国の図書館に置きにくい本ランキングで聖書が第6位
A P通信によると、米国図書館協会は4月11日に、2016年版『図書館事情レポート』を発表したが、その中で「図書館に置きにくい本トップテン」について、聖書が第6位に入り、禁止すべきという傾向が見られると報じている。

トップテンの中で、ランキンした他の書籍のほとんどが、性的に露骨な内容か、LGBT(性同一性障害等を含む性的少数者を肯定的に表現した用語)をテーマにしているものだった。

同協会の知的自由推進室ディレクター、ジェームズ・ラルー氏は「学校図書館が聖書を購入する場合は、それを政教分離への違反だと感じる人々がいる」と語った。同協会のガイドラインによると、図書館の中に聖書を置くことは、聖書が他の宗教教材よりも勧められ、支持されたりしない限り、

政教分離に違反しない。宗教団体の活動によって「抵抗のある本」に指定された側が、報復的に聖書をやり玉に上げた例もある、とラルー氏。

同氏は、聖書に含まれる見解に同意、推奨しない限り公立学校が聖書を所有することに図書館協会が反対しているわけではないと、強調する。宗教関係はコーランからモルモン経まで幅広く所有することに協会は前向きだと言う。



海外トピックス

「宗教の自由」の抑圧が世界規模で強まる
米国の『国際信教の自由委員会(USCIRF)』が、キリスト者、イスラム教徒、ユダヤ教徒などの「信教の自由」が脅やかされている状況を調査し、「2015年報告書」として5月2日発表した。

同委員会のロバート・ジョージ委員長は、「どう見ても、諸国の信教の自由は、昨年の報告書公表以来、改善に失敗したり、より悪くなっており、下降傾向にあることは確かである」と述べた。

同委員会は、『国際信教の自由法』によって1998年創設された超党派の委員会、世界規模での信教の自由に関し、国務省に助言する。「特に関心のある国」のリストには現在、中国、ミャンマー(旧ビルマ)、北朝鮮、イラン、サウジアラビア、ウズベキスタン、トルクメニスタン、タジキスタン、エリトリアが入っている。(平瀬聡樹)

読書の

ひろば



2016年版

祈りのネットワーク

イムマヌエル出版事業部刊
定価二〇〇円

今年も「祈りのネットワーク2016」をお届けすることが出来ました。ご協力を感謝致します。

『エマオの道で』の中に、キンロー先生が晩年のお義母さまと暮らした思い出を書いておられます。

70代から80代へと齢を重ねて徐々に活動しづらくなるにつれ、気持ちがふさぎ込むこともあったようですが、お義母さまは日に日に穏やかで優しい人になっていかれたようです。ある日、おばあちゃんの部屋に遊びに行った子どもたちが目にしたのは、彼女が祈っていた姿でした。近寄ってよく見ると、

と、膝に広げていた紙は子どもたちの名が記された祈りのリストだったというのです。キンロー先生は、晩年のお義母さまが、自分なんて、いても仕方がないと自己憐憫に陥る代わりに、祈りとその柔らかな存在を通して余生を自分たち家族に与えてくれていたのだと書いておられました。(5月2日のページ)

私は、このエピソードを読んで、すてきな余生の過ごし方だと思いました。私たちには毎年、「祈りのネットワーク」が届けられます。この小冊子には各教会の課題が載せられた祈りのリストです。キンロー先生が、晩年のお義母さまのお祈りを自分たち家族へのプレゼントだったと受け留めておられたのだとしたら、私たちのためにも、自分の教会が掲載されている日、全国各地からプレゼントを頂いていると考えることができなideでしょうか。そして受けるだけでなく、私たちが他の教会に祈りのプレゼントを差し上げることが出来るのではないのでしょうか。

どうぞ、今年も毎日「祈りのネットワーク」を用いてお祈りください。全国で一斉に自分たちの教会のために祈られていると思うと、本当に温かな気持ちにさせられます。そしてまた、それぞれの教会の課題を覚えて祈るとき、その存在がより身近に感じられます。今年も「祈りのネットワーク」を拡げましょう！(吉村和記)

結婚サポートシステム……

カナ・フェローシップ & セミナーを開催

結婚サポート担当 中山朝雄

最近世の中の社会現象で増加しているものが2つあるようです。それは高齢者(今や4人に1人が65歳以上)と、もう一つは未婚者の増加です。後者の要因は時代の変化に伴い結婚に希望が持たなくなってきたとか、経済的な理由から結婚しない女性や、困難を覚える男性が増えているからとか一般的に言われています。しかし、いずれにせよ未婚者の増加は国にとつては人口の減少による国力の低下につながり、同様に教会にとつても信仰の継承の面で大変重要な課題です。教団はこの課題に対して結婚サポートシステムで信徒の結婚情報の共有化を図り対応してきましたが、実績は捗々しくありませんでした。一方昨年創立70周年全国青年大会に先立って全国の信徒に行ったアンケート調査で信仰上関心度が2番目に高かったのが「結婚について」でした。回答内容を見ますと20〜60代まで幅広い年齢層が強い関心をもっているのが読み取れます。教

団は今年度からより詳しい結婚情報の共有化を試みましたが、更にもう一歩踏み込んだ対応が必要となってきたとあります。そこで、主に喜ばれる結婚を望む兄弟が一堂に会し、聖書の結婚観を学んだうえ、交流の場を企画運営する委員会を教団支援のもと信徒が中心となって立ち上げました。それがカナ・フェローシップ&セミナーで、11月に左記の通り開催いたします。また、プレ企画として10月に結婚に関する信徒土曜講座を内山勝先生が講師で開催されます。これらの集会を通して一人でも多く兄弟が結婚に導かれるように祈り願っております。ぜひ関心のある兄弟はそれぞれの集会にご参加くださるようにご案内いたします。

- 信徒土曜講座「主に喜ばれる結婚とは〜聖書的な結婚観〜」(講師) 内山勝先生
- (開催日) 10月15日と29日
- 午前と午後の2コマ
- カナ・フェローシップ&セミナー 主に喜ばれる結婚を目指して〜学びと交わり〜(第1回)
- (日時) 11月23日(水・祝)
- 午前11時から午後3時
- (開催場所) 明治大学紫紺館
- JR御茶ノ水駅より徒歩五分
- (講師) KGK総主事 大嶋重徳・裕香ご夫婦、
- (参加費) 7千円、遠隔地からの参加者への交通費支援あり、(対象) 牧師の推薦のある方又は結婚情報サポートシステム参加者
- (申込締切日) 9月28日(水)

壮年部運営委員会から……

壮年部活性化のため 新たな取り組みを

壮年部 西澤 誠

全国壮年部の働きに、尊いお祈りとご支援を感謝しております。5月10日、本部会議室にて定例の運営委員会を持ちました。ブロック担当者より、昨年度の各教区の報告をいただいた後、今年度の活動方針の検討に移りました。

▼各教会の壮年層を活性化するために、なにをなすべきか。これが大きなテーマでした。その一つとして各地区、ブロックごとの壮年部大会を奨励すること。部として講師の交通費や宿泊費など、経済的な支援体制を強化することなどが話し合われました。

▼また、若い世代の部員が少ない現状についての意見交換を行いました。青年部の活発な取り組みを、壮年部として受け止める体制を整える必要が指摘されました。

▼さらには、シルバー・ミッションの提案がありました。各地の聖会や壮年部大会に、部として証し人を派遣する体制作りをとのことでした。今後の課題となりました。そのほか詳しくは、近く発行を予定しております部報にて取上げます。引き続き、お祈りとご支援をお願い致します。



終活に向かう前に

「老いる」ことをあまり考えてきませんでした。だんだんと身近に迫ってきています。ある時、高齢の方の車いすを押し保育園のかたわらを通ったとき、園庭で遊んでいた子どもたちが私たちを見て「なんでおばあちゃんがおばあちゃんを押ししているの」と不思議そうに話しかけてきました。「まあ、おばあちゃんだって！せめておばあちゃんと言つてよ」と、もう一人の姉妹と顔を合わせてガツクリ来ました。最近、よく新聞の「お悔やみ欄」の年齢にサッと目を走らせるのですが、70代、80代が並んでいるのを見ると、人生の残り時間が過ぎるやみぎります。だからといってヒゼキヤ王様のように神さまに泣きついたりほしません。しかし、「あなたの家を整理せよ」とありますから、準備のために5年間はほしいと考えています。ヒゼキヤ王は「ああ、主よ。どうか思い出してください。私が、まことを尽くし、全き心をもって、あなたの御前に歩み、あなたが良いとみられることを行ってきたことを。」そして、大声で泣きます。その言葉通り、歴史に残る本当にりっぱな王様でした。一方、私は何をしてきたのだろうか、自分の人生を振り返るのですが、ほとんど思い出せるようなことは何もしてきませんでした。ただ、感謝なことは、70歳を過ぎてから主人と交代して説教の御用をさせていただいていることです。これは上手手の問題ではなく、私にとつてはみことばの前に座す時となりました。自分で聖書を読んでも表面的にしか理解できませんでしたが、説教集や注解書を見ると、「ああ、そういうことなのか」と初めて教えられることばかりです。福音書やパウロ書簡を説教していますが、今のところ受け売りの状態です。また、この人に、あの人にと顔を見て話すことはできません。「いっしょに恵まれましょう！」というレベルです。祈っていただいているからこそ毎週の御用が果たせているのです。もう一つ、ヒゼキヤ王は人生の最後に預言者イザヤに叱られています。「晩節を汚す」という言葉があります。世の中では残念な例に事欠きません。最後にその人物の本性が出るのでしょうか。どうか、自分が語っていることに生きる者でありますようにと祈ります。(高梨)

巻頭言

尽きないあわれみを知って



世界宣教局
蔦田 敬子

「私たちが滅びうせなかつたのは、主の恵みによる。主のあわれみは尽きないからだ。」(哀歌二・22)
「愛は決して絶えることがありません。」(一コリント一三・8)



広げた翼

Immanuel
His Wings

Department of World Missions

世界宣教局

<http://www.immanuel.or.jp/world/>

創世記のアダムから始まり、神さまに選ばれ、愛され、すばらしい恵みの中に導かれてきた神の民が、その期待を裏切つて叛逆し、恵みから離れていく道を自ら選び取ってしまうような悲しい「人」の歴史を、聖書の中に見せられてきました。なぜ、と問いながら、やがて自分もその「人」のひとりであることに気づかされ、自分の中に同じ弱さを見出して愕然とする。それが私自身の現実でした。それでも、いえ、それだからこそ、自分で自分をどうすることもできない罪人を追い続けてくださった神さまの恵みもまた、聖書を買って力強く輝いています。簡単に堪忍袋の緒が切れてしまう私たちには、「尽きない」「絶えることのない」愛、あわれみというも

のを想像することは難しく、なぜ神さまが罪人を愛し続け、赦し続けてくださるのかを説明することはできません。ただ、「私たちがまだ弱かったとき、……まだ罪人であったとき、敵であった」(ローマ五)者のために死んでくださった御子の事実を通して示された、神さまの愛に驚愕し、感謝して受け取る以外にないことを思います。この恵みを伝えるために、多くの生涯が用いられてきました。教団の第六次総会の宣教会で御用されたリディック博士は、神さまの御心のただ中に生きることの素晴らしさを語られ、宣教師としてインドに出發された後、地上で再びご両親に会うこともなく、御長子を宣教地に埋葬されるご経験を通してなお、「もう一度神様が私の生涯を選び直すように言われても、あのインドの地において奉仕した道を選ぶに違いない」と語っておられました。

今年、40年近くの長きにわたつてこの国のために労してくださいました宣教師をお送りします。決して楽な道ではなかったとしても、罪人を諦めずに愛し続けていくのださる神さまとともに働く、という価値ある生涯の尊さを改めて教えられます。私たちも、送り出されている宣教師方とともに、この素晴らしい音信を伝える恵みと特権を見失うことなく、委ねられている時を、力を、財を、心を、喜びをもって用いる者でありたく願っています。



TAIWAN

台湾

平瀬義樹・光世*2016年5月10日

今年のイースターは、神さまからの特別な恵みと語り掛けをいただきました。というのは、イースターの直前に、一年半の間、教会に集われ、半年前から個別の信仰入門コースを受講されていたKさんが罪を悔改め、救いの恵みに与られたからです。台湾に嫁がれ、來台20年。共働きということもあり、毎週、礼拝に出席したいと願いつつも、休日出勤や出張、子女の学校行事参加などで、なかなか思うように集うことが許されません。この冬には、ご主人のお父様が闘病、二か月間、入院されることとなり、仕事をしている姉妹は、週末に看護を割り当てられ、集会出席ができなくなりまりました。集会に出席できない間も、一か月ごとにまとめられた集会CDを聞き、時の空いた時に、教会に飛び込んで、信仰の学びと祈りをしてもらいました。本人の信仰の確認とご家族や友人への証しのときとして、今度のペンテコステ礼拝において、受洗されます。生まれたばかりの魂の信仰の堅立と信仰生活の祝福を覚えて、引き続き、お祈りください。

台中教会では、3月末に、ジョイイッククラブのレギュラー家族を日本に送り出しました。ネットなどで調べたところ、帰国先には、近くに教会がありません。神様の恵みの御手が置かれ続けるように、小さな未就学児を二人抱えたお母さんが教会に子どもたちを連れて教会に行こうという思いを持つことができません。お祈り下さい。

この数年、4年連続で、ジョイイッククラブのレギュラーメンバーを次々に送り出しています。気が付いてみると、今、在籍しているのは、勝大の同級生の一族となりました。邦人家庭の異動は、滞在任期が長くても3年のため、かなりの速さで入れ替わります。これまで子どもたちの関係を通して、新しい子どもたちの獲得を進めていきましたが、娘が今春中学を卒業し、小6の息子のコネクションだけとなりました。先日、授業参観に行き、保護者会の顔ぶれを見て、自分たちの年を改めて痛感させられました。台中生活が長くなるにつれ、新しい保護者との接点がなく、人間関係の構築(友人・知人になること)が難しくなっているのです。新しい子どもたち、家庭の獲得のために神さまからのお導きと知恵が与えられますよう、お祈りをお願いいたします。

今年、日本からの宣教訪問団

の年となっていますが、これまでに、大宮教会、富士見台教会、市川教会の参加申し込みがありまして、いろいろな出会い、交わりを通して、主の恵みを伝え分かつとさとなりませう、祈りつつ備えています。まだ受け入れは可能ですが、今からでも、来て、見て、体験してください。■



ZAMBIA

ザンビア

富澤 香*2016年5月7日

「この城は、人のためではなく、神である主のためだからである。」
(一歴代一九・一)

日頃のお祈りとご支援を感謝いたします。

シートにスタンプを押すはずでしたが、作られてきたシートの大さがあまりにもまちまちで、千枚近くのシートを全てをたたみ直すことから始めなければなりませんでした。どうして?と私たちに考えられないことが起こります。またスタンプ用のインクが良いものがなく、洗濯すると消えてしまうのでペンキも試みたのです。

が難しく、今はどのように病院と病棟のしるしを付けるか、再度検討中です。

倉庫には、突然連絡なしに寄付された手術台が2台と心地よい大きな車椅子5台が持つてこられて、収容のための場所作りに翻弄されましたが、何とか収容できホっとしています。また母子保健のアウトリーチのお手伝いを2回させて頂き、とても和やかな雰囲気の中で楽しい時でした。

ジェンボ宣教師館プロジェクトは家の中の壁塗りと床が塗り終わり、トイレや洗面の取り付けに入りました。排水のためのパイプの取り付けも始まりました。コンテナの移動や下水の配管のための準備で草を刈ったり、井戸を掘るための会社の選定や電気会社との連絡など、折衝すべき様々なことが山積みです。お祈りをお願いいたします。■



ZAMBIA

ザンビア

根廻恵子*2016年5月4日

日頃のお祈りに感謝します。5月に入り、いよいよザンビアに向けて出発する月となりました。先月の広げた翼にも載せさせていたいただきましたが、1年間の巡回報告帰国を無事に終えることが許されました。訪れる先々で多くの出会いがあり、皆さまから「お祈りしていますよ」と暖かく声をかけていただき、多くの癒しと、励まし受けてきました。昨年の帰国した頃を思うと、日本人でありながら、久しぶりに帰国した日本において、はじめはちょっと居心地が悪く感じていたことを思い出します。先輩の宣教師方がよく、「見かけは日本人ですが、中身は外国人です」とおっしゃっていたのが、よくわかります。「1年後またザンビアに帰る」と思うと、日本の文化にどっぷり浸かってしまうことが、どこか怖く感じていました。しかし、1年間日本にいるのだから日本の生活をしようという思いもあり、なんだかジレンマを感じる

ような時もありました。そのような時に「明日のことは明日が心配します」というみ言葉が語られ、今置かれているところで、そこにある恵みを感じながら日々を過ごしていくことができました。今回帰国中に巡回することで、予想以上に多くの方と交わることが許されました。私の性格上、自分から積極的に話しかけるのは上手くないのですが、皆様の方から声をかけてくださるといふ恵まれた待遇をいただきまして、多くの方と交わることが許されました。また、日本での生活が今回は1年間という期限があることで、以前はやらなかつたことを積極的にやることもできました。

ミッションハウス在住中には、隣に豊田宣教師一家がいらつしや、良き交わりをして頂きました。同じ宣教師という立場ではありませんが、ゆっくり交わる機会というのはなかなかないので、このような機会は大きな恵みでした。5月27日の出発に向けて準備を始めています。日本のものが安く、質もいいので色々持っていくという誘惑がありますが、持っているものにも限りがあることや、実際に持って行ってザンビアで使えるかどうかということを考えながらのモノの選出が必要で、頭を悩ましながら準備を進めています。出発までカウントダウンが始まっていますが、残りの滞在を大切にしたいと思います。■



BOLIVIA

ボリビア

三森邦夫・加寿子*2016年5月8日

今年に入って始められたコトカ市での伝道は、想像通り、いくつかの困難に直面しています。ほかの地域よりも、カトリック教会の影響力が強いことと、薬物の売買が盛んで、それとともに性犯罪の多い、問題の地域です。すでに7つのプロテスタントの教会がありますが、すべて、奇跡、癒し、異言などを強調する教会で、協力関係を持つことは今のところ不可能です。そんな中ですが、二組の献身しているカップルと、日系のT兄が中心になって、熱心に伝道活動が続けています。やがて近隣の中から改宗者が出てくることを祈りつつ励んでいます。

私たちは締めくくりにプロセスを歩んでいますが、今年に入っていくつかの新しい働きの可能性が示され、神様の導きを仰いでいます。一つは、古い友人でキャンパス・クルセードの主事だった方からの依頼で、56歳のクリスチャンの女性がセンターに紹介されてき

たことから始まりました。大きな貿易会社を営んでいる女性です。25年、癒しや悪霊追い出し、異言などを中心とした熱狂主義の教会のリーダー格で励んできたそうです。2、3年前から、教えに疑問を持ち、サンタクルス中の教会を次々に訪れたのですが、最後にすっかり混乱してしまい、健康にも支障が現れたというのです。問題の根は罪が分かっていたにもかかわらず、そのため恵みの信仰を見出す代わりに、律法主義的な信仰と奇跡を追いかけて、疲れ果て、教会に行けなくなつたというのです。一回目のセッションで、自分自身を神としていた罪の根が示され、はつきりとした悔い改めに導かれました。十字架の意味が初めて分かりましたと大喜びで、2か月ほどの間にかかなり回復してきました。この姉妹を通して、この町には以前大きな教会のリーダーをしていた人でも彼女のよう信仰が分らなくなり、教会に行けなくなつている人がかなりいるということが分かりました。ここ数年、ポリビアのプロテスタント教会の実情を見させて頂きながら、迷っている人々を助けたいと願つておりましたので、祈りながらこの姉妹とその友人の二人のために、週一回基本的な聖書の学びのクラスをすることにしました。

4月には特筆すべき悲しい出来事がありました。数年前にセンターで信仰を持った姉妹の三男が、交通事故で亡くなったのです。



KENYA
ケニア・テヌウェク
薦田就子*2016年5月1日

長男、次男と脳に障害を持って生まれた後に、与えられた健康な三男、30歳で両親の家業を継ぐべく、訓練を受けているところでした。この家族は、サンタクルスでも有数の代々続いた資産家で、将来の夢と希望を一身に背負っていたのです。あまりの痛ましい出来事に、私たちは、できる限りのサポートをしながら、亡くなって4週間を過ごしてきました。神様の憐みを中心から祈りつつ、残ったご家族に救いの信仰を述べ伝えたいと心から願っています。

今年もWGMケニアのリトリートに参加が許されました。昨年は日本に帰国中でしたが、4月にガリッサの大学の襲撃事件があり、急遽会場が変更になったと聞いています。今年も同様の変更の可能性を頭に置きつつ交通を手配するように言われました。また、全員

のフェイスブックやブログに情報を投稿しないよう指導されていましたが、今年には更に強調されました。会場に着いてから宿泊先の責任者から非常時の際には、という説明があったり、WGM宣教師で安全担当の方からもしもの際には「走る、隠れる、戦う」という説明がありました。オープンニングの締め括りには「でも最大の武器は祈る事です」とコメントされ、皆様の常の祈りに守られて、期間中も移動中も守られ良い時を持つことがゆるされて感謝でした。

リトリートでの「まずは走る、次に隠れる、そしていよいよよとなつたらとにかく戦う」ということの意味は、走ると標的になりにくい、コンクリートの壁など遮蔽物を十分に活用すること、また具体的にどのように戦うことが出来るかは個別に指導します、という指導でしたが、常々日本大使館から送られるメールには、強盗にもしあつたら決して抵抗しないように、と再三書かれておりますので、テロに遭遇するか、強盗に遭遇するかで異なつた対処が必要かどうかであることを感じています。実際に、ニアミスのような出来事は再三体験しておりますが、主の見守りと、皆様の篤いお祈りに支えられての生活を実感する毎日です。

4月の初めから年に一度の一月休暇を頂いています。3週間目にして少しほぐれてきたのかな、という感触があります。お祈りに心から感謝申し上げます。

宣教師館プロジェクトが、一つ一つ確実に進められるように
◆ジンバ、シエンポでのあらゆる働きを通して、主の証しができますように
◆霊肉の支えのため
◆カンボジア(薦田縁乃)
◆5月27日出発のカンボジア宣教の旅の安全と、目的が果たされるように

会計報告4月分
宣教師金 一、三二六、〇一三円
月平均 一、四八〇、九七四円
.....
お祈りの課題
フィリピン(豊田)
◆6月から始まる新学年度と、その準備のため
◆事故、事件、怪我、過ち、災害から家族が守られますように
◆聖書大学(ロザリス)へセブパワンへシニブシップへカバカンの必要が満たされるように
ポリビア(三森)
◆続いているリーダー・トレーニング(最終的には11人が残りました)が祝されるように
◆新しく始まった、教会に行けなくなった姉妹たちのための集会のために
◆私たちの霊肉の健康、働きの締めくくりに。働きの締めくくりのために。働きの締めくくりと、私たちの霊肉の健康のために

◆CCCの諸活動のために
◆後継者として召される器が興さ

◆台湾(平瀬)
◆洗礼式、聖餐式のため
◆信仰入門クラスが祝されますように。台南の蔡さん、陳さん、台中のMくんのため
◆暑くなりました。5月第一週の時点で、最高気温が36度越えています。私たち家族の健康と生活が守られるように
◆台湾の政治や経済、治安の安定のために。新総統・蔡英文政権の安定のため
◆ジンバ(根廻)
◆日本滞りが祝されたことへの感謝
◆残りの滞在と出発が守られますように
◆東京国際教会(薦田康毅・由理)
◆主任牧師として赴任した諸長兼牧師夫妻の日本の生活と奉仕のため
◆6月18、22日の聖書講座(林鴻信牧師)が祝されるように
◆CS、青年、日本語部の働きにも豊かな結果があるように

れますように
ケニア(薦田就子)
◆リトリート期間と移動が守られた感謝
◆休暇の用い方、また再開される病院での奉仕の祝福のため
◆病院が異端から守られるように(香港・鹿島)
◆教勢・財政の祝福のために
◆深圳から広州へ7月に引越します。邦人伝道の働きが広がりますように
◆引き続き日中関係が良好に保たれますように

聖宣神学院報



Immanuel Bible Training College

「什二」 献身

院長 ● 河村 従彦

「あふれるばかりの祝福を注ぐかどうかをためしてみよ」

(マラキ三・10)

「什二」という考え方は、聖書の中で意味があるようです。ヤコブはベテルの経験で、十分の一を献げるといふ信仰の表明をしています(創世記二八・22)。レビ記では、十分の一は神さまのものと

いふ言い方がされています(二七・30)。申命記、ネヘミヤ記、マラキ書にもこの考え方が書かれています。

信仰の表明として献げものに真実に加わって来られた方もあります。信仰の表明として献げものに真実に加わって来られた方もあります。信仰の表明として献げものに真実に加わって来られた方もあります。信仰の表明として献げものに真実に加わって来られた方もあります。



春の教師会で、ザークル先生のプレゼンテーション

10パーセントどころでなくあったと思えます。自分を客観視しようと努力しても、自分で見えていない部分が10パーセントはあり、よくわかっていないつもりの人でも、わからない部分が少なくとも10パーセントはあるでしょう。さまざまな判断が求められるとき、祈り、考え、「これが正しい」と思っても、それでも10パーセントは間違っている可能性があることを忘れない。10パーセントは間違っているかもしれないと思えない確信はイエスさま的ではありません。私たちの生きる世界には神さまの領域があります。10パーセントとは、その領域への敬意を促す言い方かもしれません。実際問題も含め、絶妙な落としどころで、神さまがしてくださることを大切に、そこに期待しようという、神さまの暖かい励ましなのでしょう。

神学エッセー

青年との歩み

改めて「青年」を考える 3



葛田聡毅

「キリスト教教育」の中にある「青年」という科目の担当をしています。先回は授業中に書いて頂いた文章の一部を紹介しました。我々個々人の青年観は、自分がどのような青年期を過ごしたかということに、大きな影響を受けるでしょう。それは個々の牧師でも特徴や個性として現われます。例えば結婚やそれを前提にした付き合いに関しての相談があった場合、ただでさえケース・バイ・ケースで個別に的確な判断を要する上に、牧師によって示唆や判断に微妙な違いが生じ得ます。青年の指導法を教科書的にまとめるのは容易な作業ではありません。クラスの最後は、過去40年程の教団青年部の動きの流れを概観し、現在の教団内及び超教派の青年活動をまとめて紹介しました。卒業後の現場で、青年の動きがどのように進んでいるのかを理解し、同労者としてすぐに協力して頂けるようにと期待しながら。70年代後半に、ウエスレアンの青年大会に青年使節団が送られ、

翌年にはウエスレアンから青年奉仕団「イエス・コー」が来日して、当時の関東教区でイエス・コーを中心として、初の「青年大会」が開催されました。その流れが強く残る中に、初めて教会枠を超えた青年委員が協力・企画した第1回関東青年大会が開催され、これも大いに祝されました。今度はこの火を全国大会へと機運が高まって来た所、なんと教団の青年部から「時期尚早(ー)」とストップされてしまいました。あの時の先輩方の落胆振り、当時傍でお手伝いするだけの高校生だった私にも伝わりました。全てを益に変えて下さる主を信じつつも、もしあの時思い切った一歩を踏み出していたらと、今でも少々悔やまれます。が、関東では毎月教会持ち回りで青年祈祷会が続けられたり、少しずつ夏期聖会の部会の企画に青年委員が加わり始めたりしました。青年大会が各地で始まり、聖会と平行して青年部独自プログラムが行われる所も出てきました。関東ではとうとう青年の聖会が独立し、08年に第1回全国青年大会を生み出す大きな力となつてゆきます。またCS生徒が中高生になって教会を離れる現状を憂い、むしろ信仰の確立の時にしたいとの祈りから「とにキャン」が始まり、今年で第9回になります。「若い日にあなたの造り主を覚え」ることが実現されるためには、ガチで青年に寄り添う器が必要です。

◆学院生活で教えられたこと

初心を忘れずに

聴講生 秋田郁美

「あなたは熟練した者、すなわち、真理のみことばをまっすぐに説き明かす、恥じることのない働き人として、自分を神にささげるよう、努め励みなさい。」(Ⅱテモテ二・15)

昨年4月に聴講生として入学が許されたから2年目の春を迎えることができました。皆さまのお祈りに支えられて1年間の豊かな学びの時を過ごすことができました。ことを心から感謝しています。

今年度の入学式の前日、3月31日の夕方に新年度のオリエンテーションがありました。春に入学された額田兄を交えて、春休みを終えた神学生が集まりました。思えば1年前のこのオリエンテーションの日が、入学試験後に私が初めて神学院に登校した日でありました。その時は初めて会う先輩たちや先生を前にしてとても緊張していたことを思い出しました。1年たって、今の私はすっかり神学院に溶け込み、神学院はとても居心地のよい居場所になっていることに気づきました。

この1年を振り返ると、本当に

恵みのあふれる素晴らしい学びの年でした。週3日、4コマの授業とeラーニング等、1年で22単位を取得することができました。

お昼のチャペルの説教の当番も初めての時は本当に緊張しました。今まで計4回当番が回ってききました。今でも緊張しますが、最初の時と比べると大分気持ちは楽になってきました。それというのも、先生方や同級生たちの暖かい眼差しのおかげです。また、優しいボランティアの方々による美味しいお食事など、恵まれた環境にいると、献身という、本来厳しい道を選んだことを忘れてしまいそうになります。冒頭のみことばは献身者としての心構えを思い起こさせてくれます。

2年目の学びの年も、初心を忘れることなく努め励みたいと思います。

◆学院生活で教えられたこと

主の前に静まる

正規コース 大谷のぞみ

いつも神学院のためにお祈りいただき、ありがとうございます。

去年度の終わりが、何の制限もなく、神様との交わりの時を心置きなく過ごせるのは、この学院にいる時だけであることに気づか

され、デイボーションの充実を目指して色々模索し始めました。何冊か、デイボーションガイドを使いながら、通読とデイボーションをやり始めたところ、すごく恵まれ、神様からの語りかけが豊かになり、デイボーションが楽しくなりました。今日神様は、何を語って下さるのだろうか？いつもワクワクして聖書を開くようになり、大変感謝しております。

最近、デイボーションで語られたことをお分かちしたいと思いましたが、出エジプト三十八章を読んだのですが、三十八章には、イスラエルの人々が、主に命じられたように注意深く幕屋を建造したことが書かれています。ガイドの中に、神様が生活の中で、生きて働かされている生活こそ、証しのある信仰生活である。そのためには、御言葉に聞き従う、自分の都合や願ひではなく、神様の御心だけが先行す



春の教師会を前に、ザークル先生最終チャペル

る信仰生活を送る必要がある。そのためには、一切を献げていく必要がある。と書かれてありました。それは、神様のロボットになるということではなく、自分の願ひを素直に神様に申し上げて、神様と交わっていく中で、神様と親しくなっていくと神様が喜ばれる事をしたと願うようになり、神様の助けによって、一切を捧げることができるようになるということを教えられました。これからも、主の前に静まる時間を大切にされる者でありたいと願います。そして語られた御言葉に感動するだけでなく、御言葉を自分のものとさせて頂きたく願っております。「主の教えを喜びとし、昼も夜もその教えを口ずさむ。」(詩篇一・2)

◆学院生活で教えられたこと

主の働きをともに

正規コース 金成星美

「主が家を建てるのであれば、建てる者の働きはむなし。主が町を守るのだから、守る者の見張りもむなし。」

(詩篇一二七・1)

神学院での学びも2年目を迎えます。ここまで、多くの祈りに支えられて守られ、進んで来れたこと

に感謝です。

2年目に入り、神学院での学びと教会での実習生活において以前より落ち着くことができたのではないかと思います。今までの振り返ってみると、みことばのように、神様ご自身が直々に私を徐々に造りかえてくださっているということを感じます。

神学院ではたくさんの先生方から様々な講義を受けることができうれしく思います。そうした一つ一つの学びや先生方の日々のメッセージから、たくさんの恵みを感じています。その中で、いま私が学んでいること、ご奉仕していることすべて、神様が導き、神様が共にいてくださっているからこそ意味があるのだということに気付かされます。

神様が偉大な方であるということとは理解できても、その大きさがどんなものであるかは私には想像すらできません。しかし、日々、神様を仰ぎ見て一つずつ知っていくことの恵みを味わいながら生きることが、まず私が体験し喜ぶことができたなら、むなしさから離れ誠実に仕えていくことができるのではないかと思います。

まとめますと、神様から離れてなにかをすることに、むなしさはあっても本当の喜びは無いということです。神学生としてそのことをしっかりと覚えて、また、これから神様が新しく見せてくださることに心から期待をして、2年目も歩んでいきたいと思っています。

私の神学生時代 学院生活の思い出

3期生 ● 藤本栄造



私は一九五一年(昭和26)年、第三期生として入学し、一九五三年(昭和28)年に卒業しました。以来六十余年を経ますが、この若き時代の学院生活は忘れることはできません。

私は日本伝道隊の宣教師ドロシー・ホア先生の伝道で、主イエスを信じて救われました(京都・天授ヶ岡教会)。そして召命の声を聞き、先輩の梶原正己先生と共に摂理的にBTCに導かれました。これが神の導きであると固く信じて諸事情を乗り越えて願書を提出しました。そして初代院長島田二雄先生の計らいで委託生として入学を許可されました。

当時の学院は、前年(一九五〇年)の秋、浦和の校舎が奇跡的に与えられたので、丸の内から北浦和に移転し、神学生の寮生活が始まりました。二、三年生の先輩たちは各人個性の強い人でしたが、明るく熱気に燃えていました。またこの年の年会で「イムマヌエル全国宣教運動」が展開される計画がたてられました。そして神学生の三年生を夏期実習に派遣し、続

いてその地にて開拓伝道にとどまることが発表されました。男子寮は一瞬にして緊張感が走りまわりましたがだれとどこへ派遣されるのでしょうか？

私が三期生として入学した当時の学院の雰囲気は、このような熱気と緊張感に満ちていました。

創設期にあった学院は、院長が時を割いて多くの授業を担当されていきました。そこで伝道者としての素養を学び、日本橋教会の開拓伝道のこと、弾圧のため二年に及ぶ獄中生活を送ったことなどを聞きました。それは神学生にとって大変興味深く有益な授業でした。

今一つ忘れられないことは、マタイ六章33節の聖句より、力を込めて何回も自給自立の信仰で教会を建て上げると語られたことです。先生はIGMの創設宣言で明白に告白されています。一九六一(昭和36)年、私はこのみことばを信じてIGMに加入し、福岡教会の開拓伝道の任命を受けました。ようやく安定してきた教会を離れ、開拓伝道に行くことに反対する人の言葉を避けて、みことばを信じて福岡に向かいました。

今日あるのは神の恵みによることと申すまでもありませんが、若き日、聖宣神学院で学んだ三年間の訓練が、私の伝道者生涯における方向の転換という決断に導きました。もしあのとき方向転換しなかったら、今日の私は全く違った所にいたでしょう。神の摂理的な導きを感じています。

同窓生の近況

37期生

飯沢教会 ● 加藤初穂



「……神からのパンは、天から下ってきた、世にいのちを与えるものだからです。』そこで彼らはイエスに言った。『主よ。いつもそのパンを私たちにお与えください。』(ヨハネ六・33、34)

何がどれだけ務まるか懸念しつつ飯沢に身を置いて九年目。リレー競技のようにお祭りが続き、窓下を日蓮僧侶が読経と太鼓の音を響かせて通過します。最寄りの身延線飯沢口駅は数年前に無人となり、切符を買う事もできなくなりました。甲府で急行に乗り換える際、当初は可能だったかなりの距離の本気ダッシュももう無理。大雪や追突事故被害で立ち往生する弱い者を、教会の方々がよく助け愛してください、みことばの旨みを共に分け合い、噛みしめながら時を重ねています。小さな講壇に霊のごちそうが整えられ続け、イエスさまご自身のいのちが脈打つ場となりますようにと願っています。お心にかけて祈ってください。いる方々に感謝し、「この食べ物に力を得て」(一列王一九・8)の前進を祈らせて頂きます。

神学院スタッフ…恵みの想起

読む・書くことの大切さ

図書館司書 三森春生

伝道者、特に教会に派遣されて牧会奉仕(牧師の働き)に就くのにコミュニケーションの能力は不可欠だ。オーラル(聴く・話す)とリテラル(読む・書く)のどちらも大切だ。福音の奉仕者を養成する神学院の教育でこの面の充実がもつと必要だと思うが、現状ではこのような基礎的な修練は個人的努力に委ねられている。

親が物書きでもなかったが本好きで、幼少時から読書に親しませてくれた。公立なのに軍国主義にそぐわない自由主義的傾向だった旧制中学校に入学した最初の夏休みのリストを買った。開戦直前の世情では大半が書店で入手できず、それでも十数冊を買って読み、読後感を休み明けに提出した。

学苑だより



●6月は静かな月。夏期実習に向けて学びの日々が続きます。

●BTCサポート、そして神学院献金への加入を心から感謝致します。年会では、BTC後援会構想が提案され、年会後の教団運営委員会後援会設立の方向性が改めて承認されました。後援会構想は、信徒の皆さまの視点で運営を願っています。折々にご報告致します。ぜひ祈ってください。

●集中履修制度が導入されます。たとえば正規コースは、修学期間が4年と定められていますが、学びの期間を短縮したいと願っている方が集中的に単位を取って学びを3年にできる制度です。履修する単位数は同じです。今までも神学院運営委員会の承認で、短い期間で卒業された方もありました。それをわかりやすく制度化します。

●6月の神学院祈り会は7日(火)・午後6時からです。

サポーターズ

尊いお献げものに心より感謝申し上げます。4月の会計報告をさせていただきます。

4月分支援実状
〔今年度毎月献金目標〕
¥2,000,000

教会員による
「神学院サポート献金」
¥672,240
教会団体による「神学院献金」
¥555,076
合計 ¥1,227,316

その他の献金(一時・特別)
¥97,500

・振替：00230-0-10138

公報

本部通達

「あなたは地をゆるがせ、それを引き裂かれました。その裂け目を、いやしてください。地がぐらついているのです。：あなたの愛する者が助け出されるために、あなたの右の手で救ってください。」

(詩篇六〇：2、5)

ペンテコステを越えて、上半期6か月間の最後の月を迎えました。九州で続いた地震など、さまざまな困難を通過した半年でしたが、傷ついた者を、いやし、助け、救い出してください。主の御手を信じて、福音を宣べ伝えるために共に労させていただきます。夏の諸プログラムに向けての準備も祝されますように。

■本部

富山教会(高桑信雄牧師)では会堂の建て替えを行います。建築諸費用5500万円は自己資金と教団融資(1500万円)で充当します。正規に手続きを経て、教団責任役員会は承認しました。

2016年5月16日

イムマヌエル綜合伝道団

責任役員会

(公告)

呉教会(内山忠信牧師)は会堂を建て替えることになりました。建築諸費用2800万円は自己資金と教団融資(1500万円)で

充当します。正規に手続きを経て、教団責任役員会は承認しました。

2016年5月17日

イムマヌエル綜合伝道団

責任役員会

(会議)

13日(月) 14日(火)

神学・聖書部会

14日(火) 災害対策委員会

28日(火) 厚生委員会

■総務局

▽熊本地震のための支援金を送金していただく際、「災害支援金」と明記してください。

▽教職按手礼試験の希望者は、今月中に総務局へ申請書の提出をお願いいたします。なお、不明な点については、各地域担当ブロック・アドバイザーにご相談ください。

▽本部の会議室を使用される場合、担当者の負担軽減のため、「会議室使用申込書」(用紙・PDF・WORD)に必要事項を記入(入力)の上、提出していただくよう、ご協力ください。

■国内教会局

(女性牧師部)

21日(火) 女性牧師部会

■世界宣教局

▽葛田緑乃宣教師は、3ヶ月の予定でカンボジアのクメール・コミユニティ教会での短期奉仕のために、5月27日に渡航しました。健康が支えられて奉仕を果たせるようにお祈りください。

▽根廻恵子宣教師は、5月27日に第二期のためにザンビアに赴任しました。ジェンボにおける宣教師

館建設は、内装工事の段階に入りました。完成まで、事故やトラブルから守られ、順調に工事が進むようにお祈りください。

《IWF関係》

▽先月10日に本部にてIWF理事

会が持たれ、相互の情報交換と理解を深める時が与えられました。

▽ケヴィン・ザークル宣教師夫妻は、日本での奉仕を終えて、拠点

をアメリカに移すために6月3日に、帰国の途に着きました。今

後もWGMのアジア・ヨーロッパ地区の責任者として奉仕は継続さ

れ、年に1~2回、来日予定です。

▽梅田昇、登志枝師夫妻はアメリカのウェスレアン教団総会出席のために6月3日から9日の日程で渡航します。

▽WGMの総理を14年間務められたヒューバート・ハリマン師は7月に引退されます。後任にダニエル・シェーファー師が選出されました。

■教育局

(会議)

7日(火) 生涯学習課会議

(とにキャン)

◇第9回全国中高生とにキャン

日程：8月9日(火) 12日(金)

会場：聖山高原キャンプ場

テーマ：「GACHI ガチ」

(ユースステーション関係)

◇ユースステーション全国大会

日程：8月15日(月) 18日(木)

会場：奥多摩福音の家

テーマ「迷ったっていいじゃない!」

講師：小坂嘉嗣師(日本宣教会・狭山キリスト教会牧師)

案内申込書が各教会に届けられましたら、青年たちにぜひ声をかけ、参加を励ましてください。ぜひよろしくお願いいたします。

▽eラーニング「信仰者の自己点検」

人を知り自分を知る……そして主に向かう

藤掛明先生(聖学院大学准教授、臨床心理士)

前期(16年8月9日) 3週間

このころを理解するための三つの知恵

後期(17年2月20日) 5週間

兄弟関係、性格テスト)

お申込み(6/5受付開始、申込フォーム参照) <http://grace-online.jp> お問い合わせメール learning1308@gmail.com

《JEA関係》

▽第31回JEA総会

日程：6月6日(月) 8日(水)

会場：ヤマハリゾートつま恋

I GMからは代議員5名、田中進、植木英次、岩上敬人、葛田直毅、岩上祝仁各師を派遣します。

《JHA関係》

▽第23回東海聖会

日程：6月25日(土) 26日(日)

講師：水口功師

会場：名古屋一麦教会

《JEF関係》

▽第49回JEF総会

日程：6月19日(日) 21日(火)

会場：中目黒教会

テーマ：「ホーリネス信仰と教会」

講師：聖会(中西雅裕師・小平牧生師)・セミナー(石田学師)

消息報告



▽熊本教会(末弘嘉孝牧師)では会堂の修復工事が終わりました。6月から支部の集会も再開の予定です。避難生活を余儀なくされている信徒の方々のためにお祈りください。

I GMからは代議員5名、藤本満、矢木良雄、川嶋直行、竿代照夫、山口民雄各師を派遣します。19・20日夜7時からの聖会は、どなたでも参加できます。ぜひ出席ください。

▽5月は創立記念日特別教会実習を行いました。受け入れ教会に感謝致します。

▽信徒土曜講座が開講になりました。これから開講になる以下の講座は今からの申込みも可能です。教会を通してお申込みください。

春学期 「神さまってどういう方?」(短期集中3回コース、7月16日開講、院長)

秋学期 「主に喜ばれる結婚とは」(聖書的な結婚観)(変則4回コース、2日で受講、10月15日開講、内山勝先生)、「聖書的カウンセリング初級」(短期集中3回コース、12月17日開講、院長)

▽神学院祈り会

6月7日(火) 午後6時、本部会議室です。祈りのためにお集まりください。